



# よい子に北山



令和6年9月17日 第19号

## 8月20日(火)～23日(金) 岩手県遠野市への訪問

大府市では夏休み中（遠野市では18日から2学期が始まっている中）、小学生都市間交流事業に学校代表として2人が参加し、岩手県遠野市を訪問しました。訪問団は、本校の2人を含む市内小学生18名と、本校の高木を含む共和西小学校長を団長とする引率3名です。4日間にわたり、遠野小学校との交流や各種施設見学や体験に取り組み、多くのことを感じ、学ぶことができました。※以下は体験報告書の一部抜粋です。



### 6の3 ○○ ○○

二日目に遠野小学校に行きました。遠野小学校では一緒に、ニュースポーツをしたり給食を食べたりしました。遠野市長さんから教えてもらったことですが、トイレの花子さんは遠野小学校で発見されたそうです。遠野小学校には歌と語りで遠野のことを表現する「遠野の里の物語」があり、オシラサマの劇を見せてもらいました。それは本当にすごく、驚きました。

### 6の4 ○○ ○○

僕は、さまざまな体験活動に魅了されました。四日間、楽しい体験がたくさんあったからです。特に一日目「銀河鉄道の夜」の作者、宮沢賢治さんがわかる『宮沢賢治童話村』を訪問し、賢治さんの世界を感じました。三日目に乗馬体験した遠野馬はでかくて二人乗れそうでした。四日目、『遠野伝承園』で語り部さんから昔話を聞いたり、『カッパ淵』でカッパ釣りをしたりしました。

## 9月2日(月) 2学期始業式（「校長の話」の概要）

「今の自分は、過去の自分からのプレゼント」。「過去」の自分から「今」の自分に、よいプレゼントはできましたか？

2学期を始めるに当たって、「未来の自分によりプレゼントをするためのコツ」についてお話します。（オリンピック選手を例に）

いくら高い目標を掲げていたとしても、「練習したくない」「やる気が起きない」ってことが人間ならあると思います。そんな気持ちを乗り越え、どうしたら練習をやり続けられるのか。私たちは何かをしようとしたとき、まず気持ちの面で「やる気」をもつことが大切、と考えがちですが、どうも違うらしいんです。気持ちは後、まず行動。気持ちは無視してでも、練習場所に行き、練習を始める。すると、気持ちの面でものってきて、練習に取り組める。続けられる。行動が先、気持ちは後。2学期は「いいこと考えた！まずやってみよう！」で過ごそう。

**コツ！**

**まず行動！**

**そのあと気持ちはついてくる**



## 9月10日(火) 交流教室 パラリンピアンがやってきた！



（記事は次頁に続く）

本事業は、NHK、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、東京都障害者スポーツ協会が主催する交流教室です。パラリンピアンなど障害者スポーツのトップアスリートたちと交流の機会を作ること、子どもたちの障害や障害者スポーツに対する理解を促したり、福祉の学習を深めたりすることをねらいにしています。

今回お越しいただいたパラリンピアンは葎原 滋男（よしはらしげお）さん。過去4度のパラリンピックに出場し「走り高跳び」で銅メダル一つ、「自転車」で金メダル一つ、銀メダル二つを獲得する日本の視覚障害者スポーツのレジェンドと呼ばれる方でした。

この方は、22歳で障害者となったそうですが、「かわいそうな人と思われたくない」「目が見えなくても楽しんで生きたい」「みんなが憧れる障害者になりたい」と思い、得意だったスポーツの世界に飛び込み、さまざまな種目にチャレンジしたそうです。人間という存在の可能性を強く感じさせられました。葎原さんの技術だけでなく、考え方や人柄から多くのことを学ぶことができました。



## きたちゃんインフォメーション



### ◆子供落語教室「大府の笑学校」落語会◆

9月8日（日）午後1時30分から大府市役所地下多目的ホールにて「大府の笑学校」落語会が開催されました。落語家の春風亭昇羊さんの指導の下、稽古を積んだ15人の小学生落語家さんたちが、落語と大喜利を披露しました。

本校からは、高座に上がって3年目、パッパラ亭コーンさん（3年生）が『親子酒』を披露しました。

興味のある人は「大府市笑学生落語クラブ」で検索してみてください！



### ◆通知表の配付について◆

前期の終了日が9月30日であり、その日までの出欠等を勘案して通知表を作成するため、前期通知表の配付を10月4日（金）とさせていただきます。年度当初にお知らせした年間計画とは別日での配付となります。ご了承ください。よろしくお願いいたします。

**ケロけるん**

私は専門教科が美術なので、これまで様々な材料を使って作品を作ってきた。木・紙・石・粘土・布・硝子・プラスチック…。一般の方が扱わない鉄も大学で扱った。材料を扱う経験は人よりも多い方だと自負している。そんな私だが、まだ作品を作ったことがない材料がある。それが毛糸だ▼大昔、私にだって手編みのセーターを贈られた経験くらいはある。しかし、自分自身で何かを編んだことはない。編もうと思ったことがなかったし、編み方も全く分からない。鉄でさえ加工する方法を知っているのにだ。そう気付いたら急に編み物をしてみたくなった▼そこでまず教本を探しに本屋へ行った。行ったのだが、頭の薄いおやじが編み物の本を手にとっている姿を、他の客がどんな目で見ているか想像し、じつくりと本を探せなかった。自分の偏見を無くすところからだと、作品の完成はまだまだ先だ。

もしあなたが人を憎むなら、あなたは、あなた自身の一部でもある彼の中の何かを憎んでいるのだ。我々自身の一部でないようなものは、我々の心をかき乱さない。

ヘルマン・ヘッセ（スイスの小説家、詩人）